

事業者	A事業者
管理手法	・周辺施設と連携してセット料金や年間利用券、受付窓口の1本化などを検討してはどうか。
事業アイデア	・今ある施設で上手く周り連携しながら、徐々に人を呼びつつ大きなイベントにつなげる。 ・自分達が主になってできることは、イベントの企画、カフェのメニューやオープンまでの支援など。 ・町内飲食店と連携するには民間が間に入ったほうが動きやすい。 ・入館料無料期間を設けたり、エネルギーに関係ないイベントで人を集めてはどうか。
課題	・距離のハンデがあるので、普通のイベントでは厳しい。
その他	・何をしたいか、目的を明確にしてもらわないと、抽象的な提案しかできない。

事業者	B事業者
管理手法	・年間〇〇〇〇円で、きいばすや周辺施設を利用し放題にしてはどうか。
事業アイデア	・学校に合わせて提供していたエネルギー学習を、3時間の固定プログラムを3パターンくらい作って明確にしてはどうか。
課題	・きいばすは利益が出るように徐々に切り替えていく工夫をしなければならない。 ・もっと地元を巻き込まないといけない。
その他	・エネルギー学習ができる地域は他になく、エネルギー学習をしたい学校は増えてきていて需要がある。

事業者	C事業者
管理手法	・丹生区が自主的にきいばすを取り込んでやっていくのが一番いいと思う。
事業アイデア	
課題	・定期的な講座がなく、イベントも少ないと感じる。 ・きいばすの利用頻度をどのように上げていくかが課題
その他	・丹生地区だけ盛り上げようで終わらず、美浜町全体で考えていく必要がある。 ・土日は人の確保が難しい。 ・そもそも周りがどう考えているか分からない。

事業者	D事業者
管理手法	・白浜館や白浜キャンプ場はきいばすから少し距離があるため切り離して考えて、バーベキュー施設としてしっかり整備してはどうか。
事業アイデア	・きいばす・オートキャンプ場・グラウンド・釣り堀など全体で「美浜町体験施設きいばす」としはどうか。 ・海も山もエネルギーも、美浜町の特徴が全部ここで体験できることをコンセプトに打ち出せば、エリア効果も出る。 ・キャンプできますよ、と流行に乗るよりは、美浜町体験施設で〇〇体験をしよう、と出した方がいい。
課題	・来館者数が伸びない原因として距離的なことが大きいと、遠いけど行きたい、と思えるような何かがないと厳しい。
その他	

事業者	E事業者
管理手法	・施設の部屋を貸し出せることをもっとPRしたほうがいい。
事業アイデア	・近隣自治体や道の駅にパンフレットを配布してはどうか。 ・コインシャワーを置いて、昔体験農家や3階の部屋で宿泊できたり、施設の部屋名を一新するのも面白い。 ・きいばすラボは飲食スペースとして活用できると思うが、今、飲食を推進するのは難しい。 ・実証実験的に、誰か何かやりたい人を募ってはどうか。
課題	
その他	・福井プラットフォームでプレゼンしてはどうか。

事業者	F事業者
管理手法	
事業アイデア	・プログラム必修化に伴いロボットプログラミングに触れることも重要だが、ロボットプログラミングを通じて親子が集える場所(コミュニケーションがとれる場)にしてはどうか。 ・小学校低学年とその親を対象として、ロボットプログラミングワークショップを開催してはどうか。 ・1泊2日でロボットプログラミングコンテストを開催してはどうか。
課題	
その他	・この取り組みをきっかけに、周辺地域(キャンプ場など)にも関心が注がれて、地域全体が盛り上がることを期待する。